

# 高等学校の言語活動の充実に関する研究

— 年間指導計画への位置付けに向けて —

逸見 直子<sup>1</sup> 伊藤 孝和<sup>1</sup>

高等学校の新学習指導要領において、言語活動の充実は、各教科等を貫く重要な授業改善の視点である。神奈川県立総合教育センターでは、平成23年度に高等学校における言語活動の充実に関する研究に取り組み、思考力・判断力・表現力等の育成を図る単元事例を提示し、指導の工夫について発信した。今年度は、更に生徒の思考力・判断力・表現力等を確実に育成するための指導の充実とともに、年間を通じた計画的な指導プランの開発にも取り組み、年間指導計画例を提示した。

## はじめに

平成19年6月に学校教育法が一部改正され、基礎的な知識及び技能の習得とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の養成に、「特に意を用いなければならない」と定められた。

また、平成20年1月に公表された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（以下、「H20 答申」という。）において、「学力の重要な要素は、① 基礎的・基本的な知識・技能の習得、② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③ 学習意欲」（p.21）の三つであると整理された。

一方、「H20 答申」は、我が国の児童・生徒の学力について、各種調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の習得については、全体として一定の成果が認められるが、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題があるとした。そして、思考力・判断力・表現力等を育むために「数式などを含む広い意味での言語」（「H20 答申」 p.25）を基盤とする学習活動を行うことが不可欠であり、国語科のみならず、各教科において記録・要約・説明・論述といった学習活動に取り組むべきであるとしている。こうしたことを踏まえ、平成21年3月に、新しい高等学校学習指導要領が告示された。その改訂に当たり、教育内容の主な改善事項の筆頭に掲げられてきたのが、言語活動の充実である。

神奈川県立総合教育センターは、言語活動の充実に関する研究として、平成21年度に小学校を対象としたもの、平成22年度に小学校及び中学校の接続を意識したもの、平成23年度は高等学校を対象とする研究に取り組み、言語活動の充実を図る方策として、「考えを持つ」、「考えを広げ

る」、「考えを深める」という三つの学習活動を設定し、単元に位置付けた事例（国語・地理歴史・数学・理科の4教科）を紹介したガイドブック、「〈高等学校〉言語活動の充実を図る実践事例集」を発行した。その内容は、研修講座やカリキュラム・コンサルタント事業<sup>2</sup>において活用し、各学校の授業改善の参考となったが、更に充実を図るためには、言語活動を適切に年間指導計画に位置付けることが課題となり、平成24年度も引き続き高等学校の言語活動の充実に関する研究に取り組むこととなった。

## 研究の目的

思考力・判断力・表現力等の育成を図るために、言語活動の充実を図る学習指導を工夫するとともに、言語活動を適切に位置付けた年間指導計画例を提示することで、更なる言語活動の充実に資する。

## 研究の内容

### 1 研究の進め方

県立高等学校3校に調査研究協力を依頼し、調査研究協力員による国語・地理歴史・数学・理科・英語（専門教科）の5教科の実践研究を行った。本研究では、各調査研究協力校の年間を通じた校内授業研究のサイクルの中に、「言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践」を2回設定した。1回目の単元は6月中旬から7月上旬に実施し、そこで見いだされた課題に基づいた改善策を、10月下旬から11月下旬に行った2回目の単元に反映させた。さらに、2回目の単元で確認された成果と課題及び改善策を明らかにした。

こうした一連の取組みを通じ、年間を通して思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の在り方について

2 学校及び教職員、学校関係諸機関等からのカリキュラムに関する相談や問い合わせに対し、所員の派遣や資料提供などの支援を行う事業。

1 教育課題研究課 指導主事

て考察し、言語活動を適切に位置付けた年間指導計画例を作成することとした。

## 2 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の二つの視点

本研究では、言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点として、「段階を追って力を身に付けさせる」及び「繰り返すことで慣れさせる」という二つの視点を明らかにした。

### (1) 段階を追って力を身に付けさせる

本研究の言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践においては、地理歴史、数学及び理科が該当する。それぞれの教科・科目の特性を踏まえ、考えたことを表現させるために、キーワードを与えたり、課題を細かく区切って考えさせたりするなど、段階を追って取り組ませる工夫をした。年間指導計画例作成の際には、平易なものから難易度の高い課題を提示するなど、段階を追って言語活動の充実に図ることで、思考力・判断力・表現力等を高めることができる。

### (2) 繰り返すことで慣れさせる

本研究の言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践においては、国語と英語（専門教科）が該当する。言語活動の充実に図る同一の学習活動を繰り返すことで、言語活動に慣れさせ、より考えを深めさせることができる。年間指導計画作成の際には、同じ活動を繰り返し慣れさせながら、後の単元で更に考えを深めさせる構成を考えることが重要である。

## 3 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践

### (1) 国語・現代文、2 学年（県立横浜栄高等学校）

ア 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践の概要

1 回目は「論旨を正確に読み取る」という単元（3 時間扱い）で、評論文を段落ごとに区切って説明し、要約を行わせた。しかし、文章全体を一読して概観することには困難を感じる生徒が多いように見受けられた。

そこで、2 回目は「論旨を的確に読み取り、自らの考えを深める」という単元（6 時間扱い）を設定し、文章全体を大まかに捉えることを意識させるための指導の工夫を行った。具体的には、次のとおりである。

- ・環境問題について二つの視点から書かれた、構成の分かりやすい文章を教材に選ぶ。
- ・キーワードを手がかりにして、対比されている二つの視点の展開に着目させる。
- ・筆者の立場を明確にして論旨を読み取らせる。

細部にこだわらず、キーワードを追いながら読むことによって、生徒たちの要約はおおむね満足できる状況であった。また、単元の最後には、考えを深めさせるために、筆者の主張を踏まえ、自分の考えを記述さ

せたが、生徒たちの記述は、おおむね満足できる状況であった。

要約という同じ言語活動を繰り返すことによって、生徒が慣れて、論旨を的確に理解させた上で、考えを深めさせることが可能になった。

イ 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点

2 回の単元では、論理的な文章を読んで論旨を読み取ることの指導を行った。生徒の実態を踏まえて 1 回目の単元では細かく区切って、2 回目の単元では大まかに把握させたが、論理の展開をたどりながら筆者の主張を読み取ることは、論理的な文章を読む上で最も重要である。そのことが生徒自身の思考力を育てることにつながるからである。

年間指導計画を作成するに当たっては、基礎的な事項についての繰り返しによる指導を徹底し、その能力が発展的に応用されるような構成を考える必要がある。

(2) 地理歴史・世界史研究（学校設定科目）、3 学年（県立横浜栄高等学校）

ア 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践の概要

1 回目は「ヨーロッパ世界の海外進出」という単元（6 時間扱い）のまとめとして、「北米における植民地戦争にイギリスが勝利する理由」について記述させた。記述に苦手意識を持つ生徒が多いことから、資料の読み取りをさせた後、授業者が解説し、理由を記述させた。しかし、様々な要因を生徒が理解した上で、記述させることが課題となった。そのため、2 回目の単元では、次の 2 点に着目して、単元の指導計画を立て授業を行った。

- ・キーワードを与えて考えさせること。
- ・キーワードを裏付ける具体的な歴史的事象を考えさせること。

「フランス革命とナポレオン」という単元（13 時間扱い）のまとめとして、ナポレオンによる大陸制覇の歴史的意義について記述させることとした。記述させる前に、授業者が結論部分に当たるキーワードを黒板にヒントとして掲示した。また、キーワードを与えて考えさせた後、キーワードを裏付ける具体的な歴史的事象を考えさせることなど、段階を追って指導した。

また、ほかの生徒の記述を参考にさせながら、自身の記述を改善させた。これらの指導の工夫を行うことにより、生徒の記述はより具体的な歴史的事象に着目するものとなった。生徒の振り返りにも、「ほかの生徒の発表を聞いて理解が深まった」や「ほかの生徒の記述を読むことで、自分の記述の改善点がよく分かった」といった記述がある。

イ 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点

年間指導計画作成の際には、例えば、最初の段階では、結論部分に当たるキーワードを提示してから記述させたり、説明させたりする。最終的には年間のまと

めとして、生徒自ら主題を設定し、探究した成果を論述させることもできる。

### (3) 数学・数学Ⅰ、1学年（県立舞岡高等学校）

#### ア 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践の概要

1回目は「二次関数とそのグラフ」（8時間扱い）という単元の導入の時間に、グループワークで生徒に話し合わせながら、問題演習に取り組ませた。問題の解法を説明することに苦手意識を持つ生徒が多いため、グループワークに4月初めから取り組み、生徒に説明させることを繰り返してきた。グループワークでは論理的に考え、表現することはある程度できていたが、話し合った結果をクラス全体に論理的に表現することが課題になった。

そこで、2回目は「二次方程式・二次不等式」という単元（11時間扱い）のまとめの時間に、生徒が論理的に考えることができるよう、段階を追った指導を工夫した。具体的には、二次方程式が特定の範囲に解を持つための条件を、二次関数のグラフとx軸の位置関係を用いて求める問題において、次の三つの段階を踏み、生徒が順を追って考え、記述できるようにした。

- ・個人で、二次方程式の解をグラフで表現させる。
- ・グループで、与えられた範囲に解を持つための条件について話し合わせる。
- ・グループで、解法及び解答を検討させる。

また、論理的に説明する力を高めるため、次のような工夫をした。いくつかの小グループを二つの大きなグループに分け、それぞれ異なる問題に取り組ませた後、一つの小グループを指名し、全体に対して解法等を説明させた。この小グループが属さない大グループの生徒にも分かりやすく説明するために、小グループでの話し合いを重視したことで、論理的思考力や表現力を高めることができた。

#### イ 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点

年間指導計画作成の際には、例えば、生徒が段階的に考えることができる工夫として、次のことが考えられる。一点目は、これまで解法を授業者が説明した後、演習問題に取り組ませていたものを、早い段階から生徒同士で教え合い、学び合いをしながら考えさせ、問題の難易度を徐々に高めていくことである。

二点目は、より論理的に分かりやすく説明しなければ相手に伝わらないという説明場面を設定することである。

### (4) 理科・物理Ⅰ、2学年（県立舞岡高等学校）

#### ア 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践の概要

1回目は「運動とエネルギー」という単元（9時間扱い）で、実験結果の予想とその理由を、グループで話し合わせた。生徒の考えが深まっている様子が見られなかった。そこで、2回目は「音波」という単元

（9時間扱い）において、「ドップラー効果」の考察を行わせる際に、提示する課題を細かく区切り、生徒が段階的に考えることができるよう、次のような工夫をした。

- ・実験を三つに分けて、それぞれの実験ごとに考えさせること。
- ・実験結果の予想については、選択肢を与えて二者択一で選ばせ、選んだ理由を説明させること。

また、生徒に考えさせる時間を十分に確保するために、話し合いの間は、授業者の指示や説明をできるだけ控えた。

その結果、実験結果の予想について選択肢を与えて二者択一で選ばせ、その理由を説明させることで、多くの生徒が考えることができていた。また、ワークシートの記述内容等から、生徒同士の話し合いにより考えを深めることができていた。

#### イ 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点

年間指導計画作成の際には、例えば、二者択一で選ばせるのではなく、生徒たちに直接実験結果を予想させること、より難易度が高い課題にも授業者の課題の提示の工夫やグループワークを取り入れることで、生徒はより深く考えることができる。

### (5) 英語（専門教科）・英語理解（専門科目）、2学年（県立横浜国際高等学校）

#### ア 言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践の概要

1回目は「FREE THE CHILDREN」という単元（4時間扱い）において、ペアで意見交換をさせた。生徒は、ほかの生徒の考えを踏まえ、自分の考えを表現できるようになったが、自らの考えの深化を実感させること、テキストの要点を捉える読み方をさせることが課題となった。そこで、2回目は「Lone Vote」という単元（3時間扱い）を通して、英文を読ませたり、クラスメートとの意見交換をさせたりするたびに、要旨に直結する質問を投げ掛けて考えさせ、自分の考えについて合理的に説明させることで、課題に対する自分の意識や考えを確認させた。

また、発展的な内容として、「9.11同時テロ」に対して、軍事行動にただ一人反対したバーバラ・リーの2001年9月14日の連邦議会での演説を聞かせたり、演説の原稿を読ませたりすることによって、概要を捉えさせた。

生徒に要旨に直結する質問を投げ掛け、考えさせる機会を多く与えることで、生徒は情報を正確に受け取るだけでなく、その情報についての正当性や合理性を判断しながら、表現することができた。

4月初めの生徒たちは、英文を読むときに、語句の意味を隅から隅まで、日本語で理解しなければと考えていた。そこで、「何が要点か読み取ることが大切」と繰り返し指導してきた。本時の授業でも、演説を聞

かせたが、4月から繰り返し、生徒に取り組みさせてきたことによって、要点がつかめるようになっていた。

#### イ 言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点

生徒の実態を踏まえた教材を用意し、課題に対する考えを何回も表現させることで、考えを深めさせることができ、英語で意見表明することにも慣れさせることができる。単に、英文を正確に理解させるだけではなく、自分の考えや経験に基づいて、ほかの生徒との意見交換を通じ、正当性や合理性を判断させたり、評価させたりすることもできる。

年間指導計画作成に当たっては、自らの考えを繰り返し表現させながら、教材の難易度を徐々に高めていくことによって、表現の能力を高めていくことが大切である。

## 4 実践事例のまとめ

実践事例から得られた言語活動を位置付けた年間指導計画作成の視点をまとめた。

### (1) 段階を追って力を身に付けさせる

地理歴史、数学及び理科の実践からは、生徒に考えさせるための段階を追った指導の工夫が見られた。いずれも、それぞれの教科・科目の特性を踏まえ、生徒に考えさせるための視点を与え、表現させていた。

例えば、地理歴史では、歴史的事象の意義を記述させる際には、授業者が何を記述させるかを明確にする必要がある。その上で、記述に必要なキーワードを示し、結論部分を整理させる。その後、キーワードを裏付ける具体的な理由となる歴史的事象を考えさせ、ほかの生徒の記述を参考にして、記述を修正させるなどの工夫をした。

数学では、生徒が段階を追って論理的に考え、説明することができるよう、工夫した。グループワークでの学び合い、話し合いを重視し、難易度の高い問題にも取り組み、解法等を初めて聞く生徒に分かりやすく説明させた。

理科では、生徒が具体的に考えられるように、課題を細かく分けて提示した。また、実験結果の予想について選択肢を与えて二者択一で選ばせ、選んだ理由を考えさせ、グループでの話し合いにより、より一層考えを深めさせる工夫をした。より難易度の高い課題も、授業者が課題の提示を工夫することにより、生徒は深く考えることができていた。

### (2) 繰り返すことで慣れさせる

国語及び英語（専門教科）の実践については、言語活動の充実を図る同一の学習活動を繰り返すことで、言語活動に慣れさせるための指導の工夫が見られた。

国語では、2回の単元で、論理的な文章を読んで論旨を読み取ることの指導を行った。生徒の実態を踏まえ、基礎的な事項についての繰り返しによる指導を徹底することによって、2回目の単元では自らの考えを

深めさせることができた。

英語（専門教科）では、1回目の単元では、ほかの生徒の考えを踏まえ、自分の考えを表明させた。2回目の単元では、単元を通じて要旨に直結する質問を投げ掛けて考えさせ、ほかの生徒との意見交換を通じ、その正当性や合理性を判断させ、表現させることで、課題に対する自分の考えを深めさせた。

このように、繰り返すことで、生徒に要約や意見表明といった言語活動に慣れさせることができ、より考えを深めさせることもできる。

## 5 言語活動を位置付けた年間指導計画例

本研究で作成した外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」における言語活動を位置付けた年間指導計画例（抜粋）を次に示す。（第1図）

言語活動を位置付けた年間指導計画例について、「作成の目的」と「構成内容」との二つの項目に分けてまとめた。

### (1) 作成の目的

ここで提示する年間指導計画例は、各学校において、次年度の年間指導計画作成の際の参考となるよう、年間を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図る言語活動の指導内容を具体的に示したものである。そのため、観点別学習評価の4観点（国語は5観点）のうち、「思考・判断・表現」に焦点を絞って作成しており、各単元に示した言語活動例は、その単元で考えられる様々な活動から一例を示したに過ぎない。

こうしたことから、神奈川県教育委員会が平成25年1月に公表した「学習評価の手引き」（神奈川県教育委員会 2013）で示されている年間指導計画の例とは様式が異なっている。

### (2) 構成内容

年間指導計画例は、第1図で示したとおり「1 科目の目標」、「2 評価の観点の趣旨」、「3 年間指導計画作成のねらい」、「4 活動の分類の説明」及び「5 年間指導計画例」で構成されている。

「1 科目の目標」は学習指導要領に示されている各科目の目標を記載、「2 評価の観点の趣旨」は、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～」（国立教育政策研究所教育課程研究センター 2012）より、各科目の「評価の観点の趣旨」をそのまま記載している。

次に、「3 年間指導計画作成のねらい」には、思考力・判断力・表現力等を育成するために、年間を通してどのような言語活動を行うのかを記載している。また、「4 活動の分類の説明」では、「国語」及び「外国語」は、学習指導要領に示された各科目の指導事項を記載してあり、「地理歴史」、「数学」、「理

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3単位
----	-----	----	--------------	-----	-----

### 1 科目の目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

### 2 評価の観点の趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

### 3 年間指導計画作成のねらい

○ 「外国語表現の能力」を育成するために、読んだ内容に基づき、自分の考えを話したり、書いたりする表現活動を各単元に取り入れます。4技能のうち、「ア 聞くこと」や「イ 読むこと」に関わる指導は従前と同様行います。その上で、学んで得た知識を活用し、「ウ 話すこと」や「エ 書くこと」を通じて発信することができる表現の能力の育成を目指します。1年のまとめとして、スピーチを行うことを目標としています。そのため、「ウ 話すこと」、「エ 書くこと」の言語活動を中心に、段階を追って繰り返し指導していただけるように年間指導計画を作成しています。

### 4 活動の分類の説明

【ア 聞くこと】事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

【イ 読むこと】説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

【ウ 話すこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

【エ 書くこと】聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

(文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 開隆堂 pp.13-15 より引用)

### 5 年間指導計画例 (表) = 「外国語表現の能力」、(理) = 「外国語理解の能力」

	単元 (題材)	単元における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の評価規準	言語活動【活動の分類】
8時間	Lesson 1 Communication around the world	英語で自己紹介をして、相手の質問に答えることができる。(表)	○ 紹介する項目を示しておき、3～4名のグループになり、英語で自己紹介し、質問に答える。 【ウ 話すこと】
		英文を読んで、語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に読み取ることができる。(理)	○ 異文化理解に関する英文を読み、キーワードを用いて20語程度の英語で要約する。 【イ 読むこと】

15時間	Lesson 10 The Power of Words	読んだことに基づき、「自分がクラス(または学校・クラブなど)にできること」という題で100語前後の英語でまとめ、話すことができる。(表)	○ 「自分がクラス(または学校・クラブ・家族・地域など)にできること」という題で100語前後の英語にまとめ、クラスでスピーチをする。 【ウ 話すこと】
		読んだ内容を平易な表現に置き換えたり、情報の順番を変えたりして、読み手に分かりやすい文章を書くことができる。(表)	○ 世界のリーダーと言われる人のスピーチを読んで、50語程度の英語で要約する。 【エ 書くこと】

第1図 外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」の年間指導計画例(抜粋)

科」は、前述した実践事例から明らかになった「段階を追って力を身に付けさせる」ことや、「繰り返して慣れさせる」ことの具体的な指導方法を説明している。

さらに、「5年間指導計画例」のうち「単元（題材）」について、「国語」及び「外国語」は、学習指導要領の指導事項を踏まえて、想定した単元を記載しており、「地理歴史」、「数学」及び「理科」は、学習指導要領で示されている各科目の内容を記載してある。「評価規準」について、「国語」及び「外国語」は単元全体の評価規準を記載し、「地理歴史」、「数学」及び「理科」は「思考・判断・表現」の評価規準の一例を挙げており、「思考・判断・表現」の全ての評価規準を示したものではない。

### 研究のまとめ

本研究では、国語・現代文、地理歴史・世界史研究（学校設定科目）、数学・数学Ⅰ、英語（専門教科）・英語理解（専門科目）において、それぞれ言語活動の充実に関心をもち、単元の授業実践を2回実施した。生徒のワークシートの記述内容や振り返りから、言語活動の充実を図る実践を行うことで、思考力・判断力・表現力等の育成だけでなく、知識・技能の定着や主体的に学習に取り組む態度の養成にもつながったと考える。

また、神奈川県立高等学校及び県立中等教育学校では、「組織的な授業改善に向けて～高等学校における授業研究の取組～」（神奈川県教育委員会 2012）に基づき、校内授業研究に取り組んでいる。本研究では、各調査研究協力校における組織的な取組による言語活動の充実に関心をもち、単元の授業実践を通じ、成果と課題、改善策などを明らかにした。そして、年間指導計画作成の視点を見だし、その視点に基づき、言語活動を適切に位置付けた年間指導計画例を作成し、提示することができたことは大きな成果である。

今後、各学校において言語活動の充実をより一層図るためには、教科の枠を越えて学校全体で課題意識を共有して取り組むことで、各学校における組織的な授業改善の取組を一層進めていくことが必要である。また、提示した年間指導計画例については、今後、各学校における課題や改善策等を踏まえ、適宜改善していくことが重要である。

### おわりに

本研究の成果として、当センターでは「高等学校における言語活動の充実に向けてー言語活動を位置付けた年間指導計画例の作成ー」を作成した。当センターWeb ページからダウンロードすることができるので、併せて参考としていただきたい (<http://www.edu-ctr.>

[pref.kanagawa.jp/](http://www.pref.kanagawa.jp/))。

最後に、今年度の研究を進めるに当たり、ご協力いただいた3校の調査研究協力校の5名の調査研究協力員の方々に、感謝申し上げたい。

〔調査研究協力員〕

県立舞岡高等学校	磯部 忠一郎
県立舞岡高等学校	岡安 一壽
県立横浜国際高等学校	横谷 英海
県立横浜栄高等学校	桐谷 鋼哉
県立横浜栄高等学校	長沼 純代

### 引用文献

- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2012 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』教育出版 p. 25
- 中央教育審議会答申 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」 p. 21, p. 25 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/1290361.htm) (URLは2013年3月取得)
- 文部科学省 2010 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂 pp. 13-15

### 参考文献

- 神奈川県教育委員会 2012 「組織的な授業改善に向けて～高等学校における授業研究の取組～」 pp. 5-6 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f430713/> (URLは2013年1月取得)
- 神奈川県教育委員会 2013 「学習評価の手引き」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f460124/> (URLは2013年3月取得)
- 神奈川県立総合教育センター 2012 「＜高等学校＞言語活動の充実を図る実践事例集」 <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/index.html> (URLは2013年3月取得)